

テーマ 少子化もストップ!

二石二鳥、企業内学童インターン制度の提案

赤羽岩淵中学校
第二学年 生徒

I このテーマの記事を選んだ理由を書いてください。

学校の職場体験で保育園に行き、保育士さんという仕事を身近に感じたばかりだったから。(東京新聞の記事)実際にその空間に行き、実際に何か新しい体験をするこの大きさを知ったばかりだったから(朝日新聞の記事)。また最近、生まれて初めて大きな病気をして入院、24時間、医療現場で働く方たちの素晴らしい姿を目の当たりにしながら数日間を過ごしたことで、人のために働くということについて、真剣に考える機会になったため。

II 比べる記事のそれぞれの内容について分かつたことを書いてください。

①についてある企業が社員の子供をオフィスで預かり、様々な体験活動してもらう「企業内学童」を夏休み期間に設けたところ、募集枠がすぐ埋まるほど人気だった。日頃でまなり出会いや経験ができた子供にも好評で、社員からも受け入れ人数や期間延長を求める声がかかるなど支持を得た。保育サービスを請け負う会社による、夏休みなどの長期休暇中は、特に親の負担も大きくなるだけでも預けたいというニーズは高いということ。

②について保育士起業家という肩書きで、新たな保育の在り方を提案していく小笠原舞さんにすると、子供にとって良い社会とは、大人が自分らしく生き、不安なく生きられる社会といえる。一人一人の小さな一歩、例えばお互いを認め合うあいさつなど、子育て支援は決して特別なことを必要としているわけではなく、歩みくつながらることができる環境づくりが大切だということ。

①と②を比べて分かつたこと、自分で調べてみたいこと。

大人である子供であっても相互理解を深めることができ、お互いの生きやすさにつながること。理解を深め合には、実際に人と向き合い、触れ合うことが大事であると分かった。大人が子供と関わることで得られること、子供が親の職場で体験することで得られるなどを他国の事例を含め調べてみたい。

III テーマについて、自分の考え方や他の人と交流をして気付いたこと、調べたこと、提案などを書いてください。

私は初めて入院生活を体験し、病院の先生や看護師の皆さんに一日中支えていたくて人と関わりが生み出す大きな力を実感した。Aとの普及率により、何事も「実際に」ということが大切になると強く感じた。まさしく子育てなどは仮想空間で行えるものではない。だからこそ朝日新聞の記事にあった「企業内学童」のよな取り組みは価値があり、企業はもと積極的に行うべきだを感じる。特に若手社員が子供の世話を担うことは効果的だと考える。なぜなら、結婚や子育てをイメージできない若者が多く、少子化の一因だからである。出産動向基本調査でも、子供と接した経験があるほど結婚や子供を望む傾向が高いう結果が出ている。また東京新聞の記事にあったように、子供と接することで心回復した例もある。子供は、社内に渡しをもたらすことでなり得る。また、毎年頭を悩ませる夏休みの自由研究を親の職場訪問、職場体験とし、働くことを早期から意識する。試せばどうか、各団体の調査も早期のキャリア教育は進学や将来設計に前向きな姿勢を持ちやすくなり意義深いところである。私は専外の事例、記事にある内容を踏まえ、「企業内学童イニシアチブ制度」を提案したい。学童キャリア教育の場としての機能を団体や企業が積極的に制度化することで大規模に普及することも可能。とにかく何事も実際に体験すること以上の学びはないと思う。改めてそう感じさせてくれたのも、私のキャリア形成に間違なく良い影響をもたらしてくれた保育園での職場体験によるものだ。頼れる言ひを新たに初めて実感させてくれた子どもたちに、今も心から感謝している。